

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472100508
法人名	株式会社 SHINEI
事業所名	なでしこの家
所在地 (電話番号)	員弁郡東員町穴太大谷2578-4 (電話) 0594-33-2222
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 2 月 25 日(水)

## 【情報提供票より】 (H20年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10人, 非常勤 8人, 常勤換算 13人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

### (4) 利用者の概要( 12 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	71 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いなべ総合病院	きひら内科消化器科
---------	---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東員町・桑名市・いなべ市の境に位置し、近隣には竹林やゴルフ場が広がっている静かな自然環境の事業所である。居宅介護支援事業所・デイサービスを併設した2ユニットの明るい色調の建物は玄関・共有スペース・居室共に木の温もりがあり、広い廊下の天窓や大きな窓からの光は優しく利用者が安心して暮らせる雰囲気有している。グループホームの理念「みんなの笑顔はみんなの命のお薬です」を実践し、地域福祉に熱意を持って取り組んでいる若い男性施設長のもと全職員の質とレベルの均一化を目指している。「此处は安いでいいところよ」と話して下さった利用者一人ひとりのペースを、優しく見守る職員との会話は穏やかに信頼関係が感じられた。日常的に近隣への散歩や馴染みの場所への訪問など楽しみごとの多い地域密着型を実践している明るい事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目(評価の意義の理解と活用)は職員全員で検討して具体的な改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	施設長・全職員ともに調査の意義・目的を良く理解して全員で意見を話し合い、今回の自己評価にも取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 直近では平成21年1月16日に営推進会議が開催され、外部評価、今年度の夏祭りなどが話し合われている。会議録も記載されている。運営推進会議は外部の人の目を通じてグループホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、近隣地域の理解と支援を得る為の貴重な機会である。これからも多くの方がたに呼びかけて定期的に開催し、サービスの向上に活かしていくことが期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所のイベントなどに参加後の家族にアンケートを実施し、意見や要望を出してもらっている。また家族の訪問時になんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。家族から出た意見などは運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設長と地域の方がたとの良好な関係が構築されている。また職員・利用者共に地元の方がたが多く馴染みの方がたや協力者も多い。日常生活における地域との連携は常にとりやすく協力体制も整っている。(3月に、認知症サポーター養成講座を事業所内で施設長が開催する予定もある。)

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念「みんなの笑顔は、みんなの命のお薬です」が家族のお習字で掲げられ、この理念を実現する為に地域との付き合いを断ち切らない支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年間ミーティング計画を作成し、なでしこ全体会議を毎月第2水曜日に開催し全員で確認し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長は以前より地域との関係づくりを大切にしている。職員・利用者・家族共に顔馴染みの方がたが多く、積極的に町の行事に参加し地元の方がたとの交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長・全職員ともに自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解している。前回評価の改善項目についても全員で検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	東員町職員・文化協会代表・家族代表・施設長・職員が参加して運営推進会議を開催している。外部評価の報告や近況報告などの話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は居宅支援・デイサービスを併設している。東員町の担当職員と行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に活かしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「なでしこだより」を作成し、利用者の暮らしぶりなどを報告している。またイベント時や面会時、利用者一人ひとりの様子を個々に伝えている。金銭管理は現金出納帳で家族の承認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが意見や不満・苦情を言いやすい雰囲気づくりに努めている。家族からの意見には些細なことでも速やかに検討し、改善していく体制がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は異動による利用者へのダメージを充分承知しており、利用者にはきちんと説明している。また職員の異動は一人ひとりの希望を考慮し、事業所の雰囲気づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や熟練度と研修会のテーマを参考にして外部研修に参加している。また受講後は職員会議などで報告し、職員全員が知識や技術を共有できるように進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームかすみそうの家と頻りに交流する機会を持ち、ネットワークづくりや相互訪問などの活動を通じてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設長・職員ともに利用者・家族と以前から馴染みの関係の方がたも多い。見学や併設デイサービス利用で、できるだけ時間をかけて雰囲気慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらうように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所に隣接の農園で畦の作り方を教えてもらい、季節ごとの野菜作りをしている。職員・利用者ともに喜怒哀楽の共有や利用者自身が意見を出せる場面作りの支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人を知る」を作成し、本人にできるだけ寄り添い意志の疎通を図りながら、日々の表情や行動から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また理念の「みんなの笑顔はみんなの命のお薬です」を念頭に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて利用者一人ひとりの状況を把握し、家族にも意見や希望をだしてもらい利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は日々利用者一人ひとりの介護計画と照らしながら変化を家族や関係者と話し合い現状に即した介護計画の見直しを行なっている。毎日の申し送り・ミーティング・ケース会議以外にも緊急時に現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や意見に耳を傾け家族や本人の状況に応じてお見舞い・墓参り・留守宅の農作物の世話など利用者の負担軽減をはかる柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築き、適切な受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」を作成し、本人・家族や協力医療機関と繰り返し話し合い職員全員で方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら対応している。言葉づかいも穏やかで丁寧である。また個人情報の保護も良く理解して支援している。(下着類の洗濯干しや取り込む際にも留意している。)		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく利用者一人ひとりの気持ちや体調を大切にして日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接した農園で採れた作物を使用した献立やおやつ作りは利用者の楽しみになっている。盛り付けや片付けなどは一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒にやっている。(日曜日にニコニコ会食としてバイキングなども行ない、食事を楽しむ支援をしている。)		
		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの意向を大切に、寛いだ気分で入浴を楽しめる支援をしている。(入り口に美人の湯・元気の湯の暖簾を掲げるなどの工夫もしている。)		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は日々の生活の中で知れた一人ひとりの生活歴を共有しており、張り合いのある暮らしの支援を行なっている。また家族や知人の訪問も多く楽しみごとの多い事業所である。		
		○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接した農園へ出掛けたり、近隣のゴルフ場への散歩や買い物は日常的に行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
		○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長・職員ともに鍵をかけることの弊害を良く理解している。職員は利用者の行動を見守り安全に配慮しながら支援している。居室・共有スペースの出入り口には全て鍵はかけられていない。		
		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回防災・避難訓練を実施している。緊急連絡網も作成し、災害時には隣接の会社寮に協力を得られるよう働きかけている。	○	火災だけではなく地震などの災害時の避難訓練は昼夜を問わず行ない、地域との連携や協力体制を築かれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に栄養バランスや摂取量に配慮している。個人記録に水分量を記録し水分確保の支援をしている。夜も見守りで習慣に応じた水分補給支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者全員が集えるゆったりとした広いリビングには居心地良く過ごせる配慮が随所に見られる。また大きな窓からの自然の風は心地よく、窓の外に広がる竹林や農園は、四季を体感することが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面台が設置してあり、利用者一人ひとりの使い慣れたものや好みのもを持ち込み居心地良く過ごせるように工夫をしている。		